

帝国日本の気象観測ネットワーク－満洲・関東州－

山本晴彦 著、農林統計出版 発行,
2014年1月15日、330 pp. 定価3,400円

山本晴彦著『満洲の農業試験研究史』、同著者の続編である。

まず、目次を示す。

まえがき

序 課題と方法

- 1 満洲における気象観測資料の保存・公開
- 2 東清鉄道による気象観測と北満における気象記録
- 3 関東州における気象観測の変遷
- 4 南満洲鉄道株式会社における気象観測の変遷
- 5 满州国中央観象台における気象観測の変遷
- 6 関東軍気象部の創設と変遷
- 7 中央気象台の気象業務と満洲国中央観象台との連携
- 8 满洲に関連する気象資料
- 9 满洲気象観測資料のデータベースと気象環境の評価
- 10 終戦後における満洲国中央観象台の職員の状況

終章

付図

索引

山本氏は前編での記述した出会いから、さらに山口大学経済学部東亜経済研究室大場平郎氏の資料室の古い満洲の資料、「満洲農業気象報告」、「北満洲気象報告」との出会いによって、満洲の気象観測記録をまとめた。

この作業は気象観測の専門家も果たせなかつた気象資料を、農業気象研究者がこつこつと、とりまとめた結果である。それが地球温暖化の評価解析に有効利用されていることは大きい成果である。

今後は中国東北部の農業の発展への影響、都市化・沙漠化についても、このデータを使って解析して欲しいものである。データさえ整備されれば、山本氏以外の方々でも解析可能である。素晴らしいことである。多くの方々の有効利用を期待している。

(国際農林水産業研究センター・九州大学名誉教授
真木太一)